消費者問題アラカルト

明日の地球を救う サステナブルファッションのすすめ

消費者庁消費者教育推進課

サステナブルファッションとは

サステナブルファッションとは、衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり持続可能であることをめざし、生態系を含む地球環境やかかわる人・社会に配慮した取組のことをいいます。

皆さんは、衣服を製造する背景に、どのような環境負荷や人権問題などがあるかご存じでしょうか。皆さんが今着用している衣服のストーリーについて、考えてみましょう。

ファッション産業における課題

ファッション産業は、大量生産・大量消費・大量廃棄により、製造にかかる資源やエネルギー使用の増加、ライフサイクルの短命化などから環境負荷が非常に大きい産業と指摘されるようになり、国際的な課題となっています。そして、衣服の生産から着用、廃棄に至るまで環境負荷を考慮したサステナブル（持続可能）なファッションへの取組は、近年急速に拡がっています。

日本で売られている衣服の約98％が海外からの輸入であり、衣服の多くを海外に依存する日本においては、その環境負荷や人権問題などが見えにくいのが現状です。また、使用後に手放された衣服は十分に活用されているとはいえません。衣服の製造に関する諸問題のほか、日本で消費される衣服のストーリーについて解説します。

1.衣服のサプライチェーン

前述のとおり、日本は衣服の多くを海外に依存しています。

まずは衣服の製造段階ですが、原材料の調達から始まり、紡績・染色・裁断・縫製など様々（さまざま）な工場での分業による行程を経て製造されます。

次に、消費の段階においては、製造された衣服が国内の小売市場で販売され、消費者が購入し、着用・消費します。なお、国内アパレル供給量と衣服の購入単価は、1990年と2020年で比較すると、供給量が約20億点から約36.4億点に増加し、購入単価は6,848円から2,892円と安価になりました。傾向として大量生産・大量消費が拡大しているともいえ、衣服のライフサイクルの短命化による大量廃棄への流れが懸念されています。

最後に、皆さんが衣服を手放す段階では、衣服の手放し方は、「古着として販売」の割合が７％、「譲渡・寄付」の割合が３％、「地域・店頭での回収」の割合が14％、「資源回収」の割合が８％、「可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄」される割合が68％となっています。さらに手放した後の衣服の行方は、リユース・リサイクルされる衣服が34％、処分・埋め立てされる衣服が66％となっています。手放した服がリユース・リサイクルを通じて再活用される割合の合計は年々高まってきていますが、処分・埋め立てされる衣服の割合は約７割と多く、改善の余地がある状況です。

2.環境負荷

衣服のサプライチェーンの中で、製造段階における産業全体の環境負荷はどのくらいでしょうか。原材料調達から店頭に届くまでの環境負荷を見てみましょう。

原材料調達段階の環境負荷としては、コットンなど天然繊維の栽培時に水の消費や化学肥料による土壌汚染、ポリエステルなどの合成繊維の生産時に石油資源の使用や工場でのCO_2排出などがあります。

また、前出のとおり、日本は衣服のほとんどを

海外に依存し、輸入しているため、その輸送時のCO_2排出も環境負荷になります。日本のファッション業界のCO_2排出量は原材料調達及び製造段階において、90%以上を占めています。

そして、原材料調達から製造段階までに排出される環境負荷の総量（年間）をみると、CO_2排出量が約90,000kt、水消費量が約83億m^3、端材等の排出量が45,000t、加えて化学物質による水質汚染などもあります。これを衣服１着当たりに換算すると、CO_2排出量は約25.5kgで、この数値は500mlペットボトル約255本製造分に相当します。水の消費量は約2,300ℓで、浴槽約11杯分に相当します（**図１**）。

次に消費の段階ですが、皆さんは衣服を年間何枚購入し、何枚手放していますか？ 2022年度の環境省の調査によると、１人当たりの衣服消費・利用状況（年間平均）は、購入枚数が約18枚、手放す服の枚数が約15枚、着用されない服が35枚という結果でした。手放す枚数よりも購入枚数のほうが多く、１年間１回も着られていない服が多い状況です。また、１年間にリペア（修繕）する衣服の量は約２枚ともいわれています。もし、手放す衣服である約15枚の衣服をリペアしたり、１年間に１回も着用せず、しまい込んでいる35枚の衣服を活用したりすることができたら、廃棄量の削減や、ひいては供給量にも影響を及ぼし、大量生産・大量消費・大量廃棄の悪循環を変えることができるかもしれません。

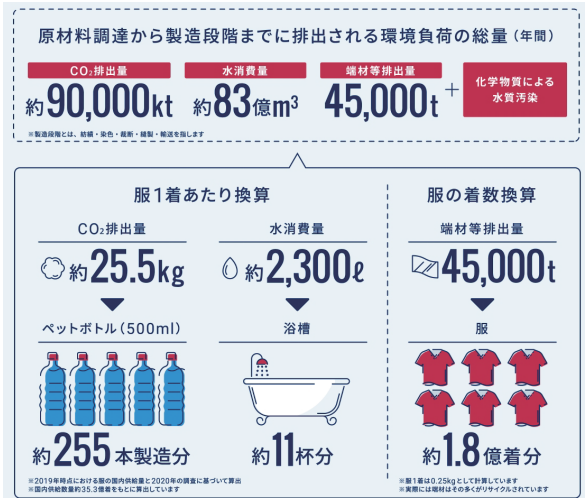
最後に衣服を手放す段階ですが、皆さんはどのくらいのペースで衣服が廃棄されているか知っていますか？日本の家庭から焼却・埋め立てされる衣服は、年間約45万トンです。これは、平均すると１日当たり大型トラック約120台分の服が焼却・埋め立て処分されている計算になります。皆さんが今着用している衣服１着を作るためにも環境に対して様々な負荷がかかっています。

３.人権問題

衣服製造の背景には、人権問題もあります。2013年にバングラデシュで複数の縫製工場が入ったビル「ラナ・プラザ」が違法労働の常態化により崩落し、1,100人以上の労働者が死亡し、2,500人以上の負傷者が出たという事故がありました。これは、労働環境や建物の安全性を担保する取組が急速に広がる要因となりました。また、アパレルメーカーの委託生産先である途上国の工場での低賃金・長時間労働や児童労働の問題なども発覚し、問題提起されています。

これらの問題を契機にして、アパレルファッション産業のサプライチェーン管理の重要性も広く認識されるようになりました。

図1 衣服の原材料調達から製造段階までに排出される環境負荷



出典：環境省ウェブサイト「SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に」
https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/index.html

持続可能な社会のため、私たち消費者にできること

これらの課題解決に向けては、事業者や事業者団体の活動・取組に加え、消費者一人一人の主体的なサステナブルファッションへの取組も鍵となります。

消費者庁では「サステナブルファッション習慣のすすめ」という特設サイトを開設し、私たち消費者にできる「18のヒント」を掲載しています。

買う時、選ぶ時のヒントとしては、処分することも考えてみる、レンタルサービスを利用する、長く着ることができるものを買う、などがあり

ます。例えば、レンタルサービスに関しては、長くは着ないし、何回も着る機会がないけれど、着てみたいという時に利用してみるとよいでしょう。スタイリストによるアドバイスがつくものもあり、専門家の意見を聞きながら気軽に様々な着こなしを楽しめます。

また、日々のお手入れにおいては、マイクロ・プラスチックを流出させない、お直しやリペアで長く着られるようにする、などがあります。例えば、マイクロ・プラスチックの流出については、洗濯時に合成繊維から脱落するマイクロ・プラスチックが海洋に流れ込んで年々増えているといわれています。市販のマイクロ・プラスチックの脱落・流出を防ぐ専用洗濯ネットがあるので、洗濯時のひと手間でマイクロ・プラスチックの流出を抑制することができます。

衣服を処分するときは、回収サービスを利用する、バザーやフリーマーケットを活用する、どうしても使い道がない場合は資源回収に出す、などがあります。例えば、まだ着られる服であれば、リサイクルショップなどの買取店、行政・団体等のバザーやネット上のフリーマーケット、ネットオークションなどを利用する方法があります。また、販売した服の回収サービスを提供しているメーカーもあるため、服を買いに行くときに持参したり、回収サービスを行っているメーカーを選んだりすることも１つの選択肢です。

どうしても使い道がない場合は一般ごみとして出さず、自治体のルールを確認のうえ、資源ごみとして処分しましょう。

行動のヒントには、各企業の取組なども掲載されていますのでぜひウェブサイトをご参照ください（**図２**）。私たちの行動は社会を変える可能性を秘めています。できることから始め、持続可能な社会に向けて行動を起こしましょう。

サステナブルファッション習慣促進教材

消費者庁では、サステナブルファッションについての理解や関心を高め、行動変容を促す消費者教育の実現のため、2025年３月に中高生向けの教材を開発し、公開しています（**図３**）。

教材は進行役・教師用の解説書、参加者用・生徒用のハンドブック、解説書と連携したスライド資料、各アクティビティに対応したワークシート・カードセット、動画教材の５種類です。それぞれ、ファッション業界の環境負荷に関する解説や、衣服のタグから衣服のストーリーを考えるワークシート、衣服のサプライチェーンに関するグループワークなどのアクティビティがあり、楽しみながら学べる内容となっています。アクティビティすべてを行うことも、１つをピックアップして使用することもでき、教材の活用例も解説書に掲載しているため、中高生のみならず、サステナブルファッションについて知りたいときや、地域のイベントでの活用も可能な教材です。

本稿をご覧になり、サステナブルファッションについて、興味が湧きましたらぜひご活用ください。

図２ 消費者庁ウェブサイト「サステナブルファッション習慣のすすめ」

https://www.ethical.caa.go.jp/sustainable/

図３「サステナブルファッション習慣進行役・教師用解説書」